

2-3 落花生の生育パターンは

- ①枝葉の伸長と花の形成は同時進行
- ②枝葉の伸長が先行し花の形成は後から
- ③環境条件や体内の栄養状態によって変わる

子孫を残す、種子繁殖植物では発芽する種子をつくるというのが、植物にとって大きな役割の一つです。その意味では、なるべく早く花を形成・開花して種子を着けたいところですが、その基になるエネルギーが不足する、または環境条件が不良だといい等の発芽できない不良種子しか形成できないこととなります。

そのリスクを避けるためには、中高温性植物では枝葉を伸ばしつつ花も形成し、光条件や温度等が良好になった時期に開花・結実するパターンが好ましいと考えられます。

落花生はまさにこれにあてはまり、5月～6月にかけ枝葉と花芽の形成をじっくりと同時進行させながら、太陽光が強く長時間あたり、高温になる7月以降に開花・結実を行います。その後も枝葉を生長させ、結実種子にエネルギーを供給して、完熟種子を実らせるという戦略をとっています。落花生の種子成分は、とても高エネルギーなのを考慮すると、ベストな戦略だと筆者は思います。

ただ、8月中旬以降の開花では完熟種子にならないものが多く、無駄花となってしまいますが、これは同時進行パターンの植物では致し方ないことです。少なくとも3粒以上の完熟種子ができれば、植物としては生きながらえる可能性が高いので、すべて完熟種子といかなくてもOKじゃないでしょうか。え、3粒以上？。何故、1～2粒以上では無いのか。発芽率と発芽後の落花生の障害率を筆者なりに考慮した結果で、独断と偏見かもしれませんが、更に研究の余地有りですね。

なお、温度や光等の環境条件さえ良ければ、原理的には無限に生長するパターンを無限伸育性、有限にしか生長しないものを有限伸育性と呼びますが、落花生は無限伸育性に分類されます。但し、実際に2年以上生育させることは難しいのが実情です。過去大阪万博で長期間生育するトマトが展示され話題を呼びましたが、同様なことは落花生はできるのか、無謀なチャレンジする方いますか。

正解 ①